

東京国立 博物館 ニュース

第686号
展示と催し物
案内

2007
121
2008
月号

2◎「博物館に初もうで」

3◎「お正月の国宝室」

4-5◎陽明文庫創立70周年記念特別展
「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」

6◎平城遷都1300年記念「国宝 薬師寺展」

7-9◎平常展見どころ案内2007年12月・2008年1月
特集陳列「甦る天平の宝—正倉院宝物模造」／特集陳列「吉祥—歳寒
三友を中心に—」／国宝 寛平御時后宮歌合／重文 伝源頼朝坐像

10-11◎みどりのライオン／特集陳列「版でつくる」／
連続講座「近衛家と陽明文庫—公家文化—千年をひもとく—」

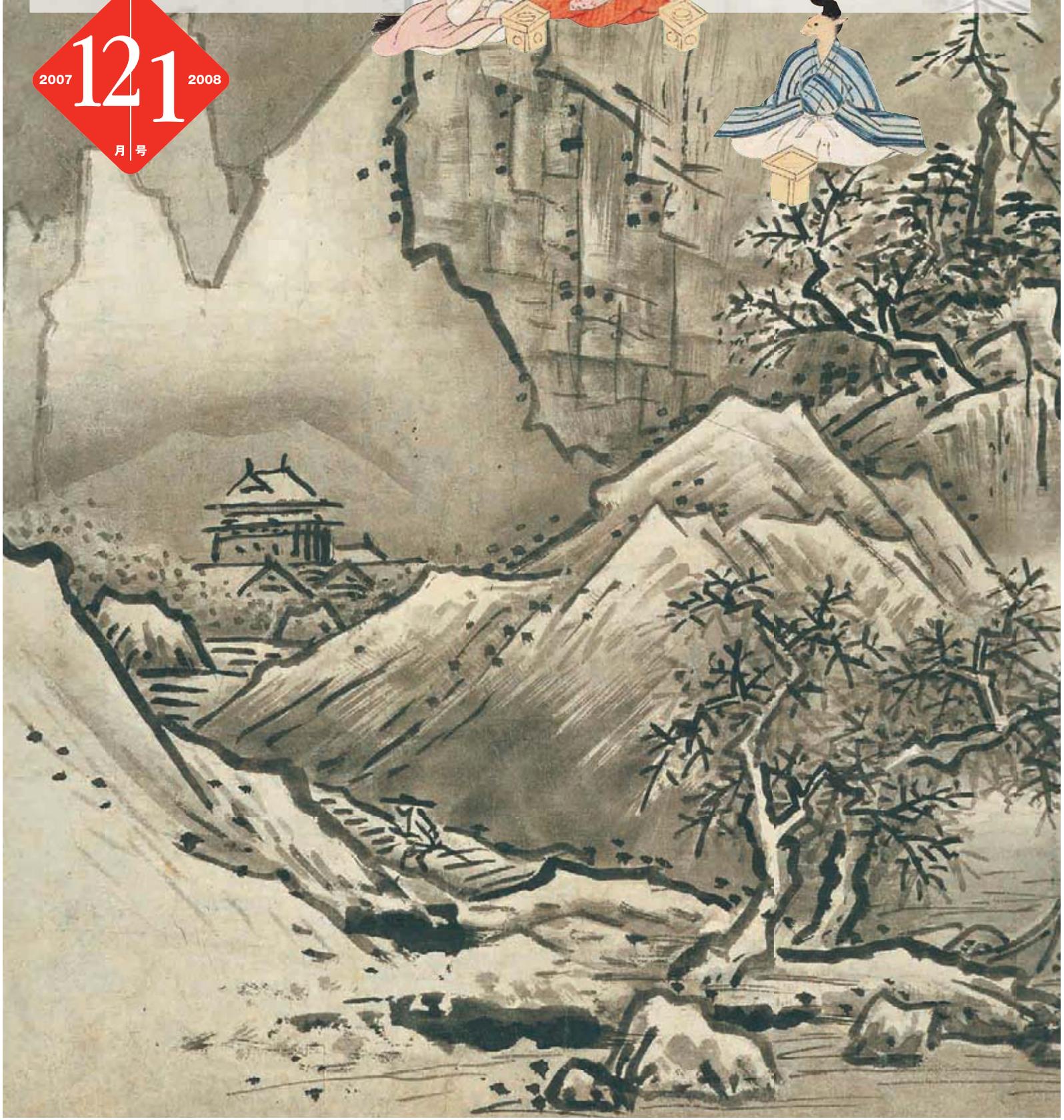
12◎TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

13◎東京国立博物館研究誌『MUSEUM』温故知新

14◎INFORMATION

15◎TOPICS

16◎2007年12月・2008年1月の展示・催し物



につぼんのお正月

博物館に初もうで

2008年1月2日(水)は
平常展無料

新春恒例となりました東京国立博物館のお正月、
2008年もどうぞお楽しみください。



鼠草紙 江戸時代・18世紀 鼠の権頭ごんのかみが美しい姫君を見初めて結婚しますが、罾にかかって鼠である事がばれてしまい、姫は通世し鼠も出家剃髪して高野山に入るといストーリーの絵巻物

新春特別展示

子年に長寿を祝う

2008年1月2日(水)〜27(日)
本館2階 特別1・2室

新春のお正月特集陳列として、本館特別1室では新年の干支である「ねずみ」にちなんだ作品を展示します。ねずみはミッキーマウスに代表される「愛らしい」「かわいい」といった感じ方もありますが、「ねずみ講」「ペスト」など、どちらかといえばマイナスイメージでとらえられることもあります。しかし、哺乳類の中でも多産であるねずみは、古来より中国・朝鮮半島を中心とした東アジアにおいて、「子宝」や「繁栄」「幸福」の象徴として人々に受け取られていました。本陳列はねずみを題材とした絵画や工芸作品を中心に、我々日本人とねずみとの関わりを示してくれる歴史資料などで構成されています。皆さんのもたれるイメージと合った作品に出会ったり、まったく意外なねずみの発見にご期待下さい。

もう一つのテーマは「長寿を祝う」です。今でこそ我々は年を数える際、誕生日ごとに加齢していく「満年齢」が一般的です

叢梨地花鳥山水蔞絵脇差 江戸時代・19世紀
日の出と鶴を蔞絵であらわした華やかな袴



が、一昔前にはいわゆる毎年正月にいつせいに加齢する「数え年」が当たり前で、一族など構成する組織・共同体全員で新年を迎えることが重要と認識されていました。

古くから公家や武家社会において季節ごとに種々の儀式が行なわれてきました。が、正月の儀礼は重要とされてきました。これらには新年を祝う新しい年を迎えられたことを喜ぶ↓その年の息災を願う↓長寿を祈るといった趣旨をもつものが多々あります。本館特別2室では「長寿」「吉祥」「儀礼」などをキーワードにして、関連する作品を展示します。またこのテーマには博物館が「新春にご来館された皆様の長寿を祝う」という意味もこめられています。展示室で新しい年を迎えられた喜びを皆様に感じていただければ幸いです。

(高梨真行)

新春イベント

雨天時は場所を変更、または中止になることがあります。

2008年1月2日(水)

- 10:30 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 11:00 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 12:00 江戸の遊芸 昔昔亭笑海 正門内池前
- 13:00 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 13:30 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 14:30 江戸の遊芸 昔昔亭笑海 正門内池前

2008年1月3日(木)

- 10:30 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 11:00 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 12:00 クラリネット・コンサート アマトゥール 東洋館エントランス
- 13:00 獅子舞 東都葛西囃子睦会 本館前
- 13:30 和太鼓演奏 和太鼓御響 正門内池前
- 15:00 クラリネットコンサート アマトゥール 東洋館エントランス

ミュージアムシアター

2008年1月2日(水)、3日(木)

上映します。各日先着60名様にカレンダー進呈

いけばな

2008年1月2日(水)〜1月14日(月・祝)

池坊・蔵重伸氏(池坊短期大学教授)
正門、本館エントランスなど

寛永寺との連携事業

2008年1月2日(水)、3日(木) 10:00〜15:00

寛永寺根本中堂特別参拝
根本中堂、徳川歴代将軍の肖像画(油画)、天下三銘石之一「黒髪山」を公開します。

新春東博寄席

2008年1月6日(日) 13:30〜 平成館大講堂

出演：金原亭馬生ほか
料金：2,000円 全席自由
往復はがきによる事前申込制(2007年12月18日(火)必着)
※当日平常展をご覧いただけます。※申込方法の詳細は本誌14ページをご覧ください。
問い合わせ先 東京国立博物館 イベント担当
TEL 03-3821-9270

ミュージアムショップからお年玉プレゼント

2008年1月2日(水)、3日(木)

ミュージアムショップで2,500円以上お買い上げの方に抽選で2008年カレンダーなどプレゼントを進呈

2008年1月2日(水)〜1月14日(月・祝)

美術書バーゲンセールを実施

レストラン・ラコールからお年玉プレゼント

2008年1月2日(水)、3日(木)

お一人様1,500円以上ご利用のお客様に抽選でプレゼント

- [A賞] 精養軒オリジナルお菓子 ガトー・セレクション
- [B賞] 精養軒オリジナルワイン ハーフボトル(白)1本

ホテルオークラ・ガーデンテラスから甘酒振る舞いサービス

2008年1月2日(水)、3日(木)

レストランご利用のお客様に甘酒をサービス

お正月の国宝室

墨の響きを聞く

松林図屏風 長谷川等伯筆

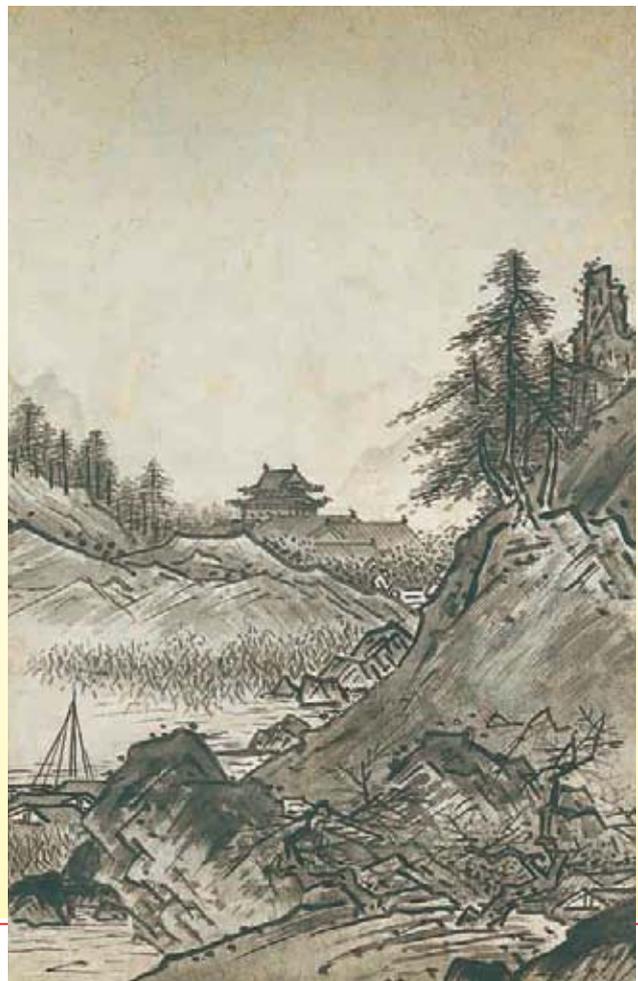
2008年1月2日(水)～14日(月・祝) 本館2室 国宝室

遠山に雪が落ちはじめ、晩秋の冷たく湿った空気を感じさせる画面です。少し離れたところからみれば、ひっそりと松林が浮かび上がります。墨の濃淡と筆遣いだけでこの絵は描かれているのです。松の線は普通に使われる筆ではなく、筆の穂をいくつも重ねたもの、竹の先を細かく砕いて筆にしたもの、あるいは藁をたばねた筆を使ったとも考えられています。

迷いなく筆を進め、繊細でありながら一気に線を引いていることがわかります。さまざまな工夫と技法によってあらわれたこの松林は、艶やかな墨の色と相まって風の流れや森の清しい香りまで実感できるのです。常緑の松は古来、長寿や繁栄の象徴であり、さまざまな詩歌に詠われました。ここで等伯は墨ということばで松を詠じているのです。(松嶋雅人)



●松林図屏風(部分) 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀
ブラッシュワークに注目する



理知的な構築性

秋冬山水図 雪舟等楊筆

2008年1月16日(水)～27日(日) 本館2室 国宝室

本図が秋景、本誌表紙が冬景(部分)です。どちらも画面の下から上へと見てゆくと、近いものから遠いものへ、モチーフを順にたどってゆくことができ、小画面にもかかわらず作者が広大な奥深い空間を表わそうとしていることがわかります。その空間構成には、雪舟以前の山水画には見られない堅固さ、理知的な構築性が強く感じられます。また山や岩、樹木を描き

出す線は意外に多様で、力強い線、よろよした線、カサカサした線、しっとりした線など、さまざまな線が用いられています。今から五〇〇年前に活躍した画家、雪舟(一四二〇～一五〇六?)が晩年に描いたとみられるこの作品には、彼の山水画における典型的なテクニクとダイナミックな構成、多様な線を駆使した表現力を見ることができます。(救仁郷秀明)

●秋冬山水図のうち秋景 雪舟等楊筆 室町時代・15世紀末～16世紀初
小画面に表現された広大な空間



花木真写 近衛家熙筆
江戸時代・17世紀
京都・陽明文庫蔵



◎青磁鳳凰耳花生 銘 千声
龍泉窯 中国・南宋時代
13世紀
京都・陽明文庫蔵

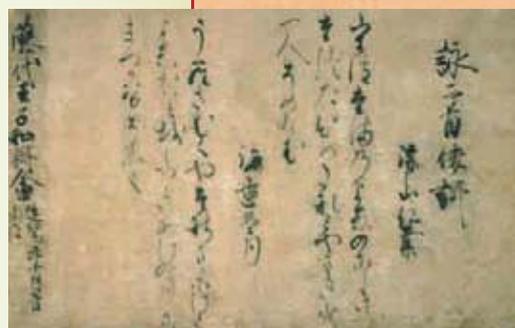
陽明文庫創立70周年記念特別展 宮廷のみやび 近衛家1000年の名宝

Courtly Millennium—Art Treasures from the Konoe Family Collection

「御堂閔白記」(国宝)には、その日常生活をはじめ、当時の社会情勢など

宮廷貴族の生活

五撰家の筆頭である近衛家は、千年にわたり宮廷文化の中心として、二十万点におよぶ貴重な文化財を守り伝えてきました。これらは、宮廷貴族らによる王朝文化の中から生み出されたもので、江戸中期の当主で博学多才で知られる近衛家熙(予楽院)の整理を経て、陽明文庫に大切に保管されています。今回の展示では、陽明文庫の所蔵品に加えて、近世まで近衛家に伝来した作品など、ゆかりの優品を一堂に集めました。宮廷貴族の生活など以下の各章において、みやびな公家文化の世界を、多くの方にご鑑賞いただけるものと思えます。



◎熊野懐紙 後鳥羽上皇筆
鎌倉時代・建仁元年(1201)
京都・陽明文庫蔵

展覧会データ

陽明文庫創立70周年記念特別展

「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」

2008年1月2日(水)~2月24日(日)

東京国立博物館 平成館特別展示室第1室~第4室

主催：東京国立博物館、財団法人陽明文庫、NHK、NHKプロモーション

後援：文化庁 協賛：日本写真印刷、三井住友海上火災保険

観覧料：一般1,400円(1,100円/1,000円) 大学生・高校生900円(700円/600円)

中学生以下無料

※()内は前売り/20名以上の団体料金。障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。※会期中展示替えがあります。

ガリアルに記されています。「歌合巻第六」(国宝)は頼通の編集によるもので、原本とする説もあります。また、皇室とも深いかわりがある近衛家に伝わった歴代の天皇の肖像や



源氏物語和歌色紙貼交屏風
近衛信尹筆 安土桃山~
江戸時代・16~17世紀
京都・陽明文庫蔵



近衛家熙像 寛深筆 九峰和尚賛
江戸時代・18世紀
京都・陽明文庫蔵

右・中央：イエズス会刺繍裂
中国・明時代・18世紀
京都・陽明文庫蔵



左：表具裂 白縞子地
「IHS」文字入り
メダイコン花唐草模様
京都・陽明文庫蔵



藤原鎌足像
室町時代・15～16世紀
京都・陽明文庫蔵

宸翰とともに、藤原行成など能書や近衛家歴代などの手になる名品の数々をご覧ください。

近世の近衛家

激動の戦国時代を経て、天下統一の事業にも関わった近衛前久の子である信尹は、寛永の三筆と称された一人です。「源氏物語和歌色紙貼交屏風」などに三藐院流とよばれる個人的な書風がみられます。嗣子のなかつた信尹は、後陽成天皇の皇子の信尋を養子に迎え、以後、学問・諸芸の伝統は、歴代によって、さらに発展継承されていきます。「一座之詩歌」(重美)は、金銀泥の下絵のある華麗な料紙に、後陽成天皇、近衛前久・信尹が書写したものです。

予楽院・家瀬の世界

家瀬は、書画、茶道、華道、香道に精通して、当時の宮廷文化の第一人者でした。空海・小野道風など名筆の臨書を集めて「臨書手鑑」を作成し、料紙の復元なども試みてい

ます。家瀬筆「花木真写」は、一二五種の植物について、科学的な視点から細部まで徹底して追及し、正確に描いたもので、本格的なボタニカルアートの先駆的な存在であるといえます。「春日権現靈験記絵巻」は、当代随一の絵師渡辺始興に命じて作成した原本に極めて忠実な模本です。また家瀬が所蔵品に施した表装は、華やかな刺繍や織り文様の裂を上下に使用するなど、大胆かつ品位のある表具に仕上がっています。

近衛家伝世の品

近衛家には、名筆の集大成である「大手鑑」(国宝)、美しい唐紙に「和漢朗詠集」を書写した「倭漢抄」(国宝)、後鳥羽上皇の熊野詣の途次の歌会で作成された「熊野懐紙」(国宝)をはじめ、明恵の「書状」(重文)など多くの優品が伝わっています。また家瀬が好んだ茶杓のコレクション、あるいは蒔絵の香道具、後西天皇が「千声」と名づけた「青磁鳳凰耳花生」(重文)、備前刀工などの作になる刀

剣(重文)、気品あふれる酒井抱一筆の「四季花鳥図屏風」、愛らしい御所人形や、精緻な銀細工の雑道具などもあります。この機会に、書跡の名品に加えて、工芸・絵画の作品もご堪能ください。(高橋裕次)

「天平楽府コンサート」～よみがえる宮廷音楽～

陽明文庫所蔵の「五絃琴譜(ごげんきんぷ)」を解説し復曲した曲を中心に、再現された古楽器で宮廷音楽を演奏します。

出演：天平楽府(てんぴょうがふ)

日時：2008年1月26日(土) 13:30～15:00(開場13:00) 会場：東京国立博物館・平成館大講堂(定員380名)

無料 ※ただし入館には、特別展「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」の観覧券が必要です。

申込方法：往復はがき、FAXまたはメールで、「天平楽府コンサート入場希望」と明記の上、郵便番号・住所・お名前(ふりがな)・電話番号と入場希望人数(2名まで)を記載の上お申込みください。

●往復はがきの場合 〒106-8691 麻布郵便局留 特別展「宮廷のみやび」広報事務局内「天平楽府コンサート」係

●FAXの場合 FAX番号：03-3560-0855 特別展「宮廷のみやび」広報事務局内「天平楽府コンサート」係

●メールの場合 E-mail: miyabi@spre-ad.co.jp 特別展「宮廷のみやび」広報事務局内「天平楽府コンサート」係

※応募多数の場合、抽選で入場整理券をお送りします。 ※お1人様1回のみのお申込みとさせていただきます。

申し込み締切：2008年1月8日(火) 必着 ※応募多数の場合は抽選となります。

お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

「近衛家・陽明文庫について」

日時：2008年2月2日(土) 13:30～15:00 会場：東京国立博物館・平成館大講堂

講師：財団法人陽明文庫 理事 文庫長 名和 修氏 定員：380名

参加方法：参加無料 ※ただし入館には、特別展「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」の観覧券が必要です。

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・お名前(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・お名前を明記して、〒106-8691 麻布郵便局留 特別展「宮廷のみやび」記念講演会 係までお申込みください。

※往復はがき1枚でお1人様のみお申込みいただけます。

申込締切：2008年1月17日(木) 必着 ※応募多数の場合は抽選のうえ、1月28日ごろまでに受講券をお送りします。

※関連した連続講座とワークショップを開催いたします。本誌11ページをご覧ください。

※陽明文庫所蔵・池坊専好の「立花園」にちなみ、平成館にて、池坊短期大学教授 蔵重伸氏によるいけばなをお楽しみいただけます(1月中を予定)。



平城遷都1300年記念

国宝 薬師寺展



1

薬師寺は
天武天皇が皇后(のちの持統
天皇)の病氣平癒を願って天武九
年(六八〇)に発願されました。皇后の病は治
りますが、今度は天皇が病氣となり朱鳥元年
(六八六)に崩御します。寺の建立は持統天皇
に引き継がれ、遅くとも文武二年(六九八)頃
までには完成していたようです。場所は藤原
京の右京八条三坊(今の橿原市木殿)でした。
その後、和銅三年(七一〇)の平城遷都にとも
ない、薬師寺も養老二年(七一八)に移されま
す。伽藍は藤原京のそれを忠実に再現したも
ので、天武、持統による創立の趣旨がいかに
大切にされたかがわかります。

金堂の「本尊薬師三尊像」(国宝)については、
本薬師寺から移座したものが、平城京で新た
に铸造したものが長く議論となっています



2

が、堂々とした体軀の薬師像と三曲法という
インド以来の躍動的表現の日光、月光両菩薩
立像が古代彫刻を代表する名作であることに
変わりありません。今回は両菩薩像が初めて
そろって出品されることが注目されます。ま
た、三尊像と双壁で生命感の豊かな東院堂の
「聖観音菩薩立像」(国宝)や、由緒ある「仏足
石」(国宝)、吉祥悔過会の本尊画で天平美人
の典型とされる「吉祥天像」(国宝)、寺の鎮守・
休ヶ岡八幡宮に安置されていた初期神像の名
品「八幡三神像」(国宝)、慈恩会の本尊画とし
て掲げられる「慈恩大師像」(国宝)などの名品
をゆつたりとした空間の中で見ることができ
ます。その他、藤原京と平城京薬師寺から発掘
された遺物や、中国で法相宗を發展させた玄
奘三蔵と慈恩大師関係の作品など、魅力ある
展示構成になっています。(金子啓明)



3

- 1 ●吉祥天像 奈良時代・8世紀 奈良・薬師寺蔵
天平美人の典型とされるふっくらとした優しい表現が魅力的
- 2 ●聖観音菩薩立像 飛鳥時代(白鳳期)または奈良時代・7世紀または8世紀 奈良・薬師寺蔵
東院堂の本尊。金堂の日光・月光菩薩像と同様にみずみずしく自然な表現に特色がある
- 3 ●月光菩薩立像 飛鳥時代(白鳳期)または奈良時代・7世紀または8世紀 奈良・薬師寺蔵
支脚遊脚で頭を左に傾けて絶妙な運動感を示す。インドのグプタ彫刻に源流がある

展覧会データ

平城遷都1300年記念 国宝 薬師寺展

2008年3月25日(火)～6月8日(日) 東京国立博物館 平成館特別展示室第1室～第4室

主 催：東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
 後 援：文化庁、奈良県、平城遷都1300年記念事業協会、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、
 千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会
 協 賛：王子製紙、キヤノン、大日本インキ化学工業、トヨタ自動車、光村印刷
 休館日：月曜日 ただし4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館、5月7日(水)は休館
 観覧料：一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、
 ペアチケット2,000円 ※ペアチケットは12月31日(月)まで販売、2名様1回ずつまたは1名様2回使用可能。
 ※中学生以下は無料、年齢の分かるものをご提示ください。()内は、前売り/20名以上の団体料金。
 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
 お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル) ホームページ：<http://yakushiji2008.jp/>
 ※会期中展示替えがあります。



平成館企画展示室

縄文時代の地域間交流

特集陳列

「甲信地域の縄文土器」

12月11日(火)～2008年2月3日(日)

山梨県および長野県は、縄文文化が隆盛を極めた地域の一つです。特に縄文時代中期は、土器の文様の共通性から広域に情報伝達が行なわれたことが判明しており、両県には著名な遺跡が多数存在しています。土器の文様の共通性の背景には、人の移動を含めたさまざまな交流があったはず。今回の特集陳列では、平

成十九年度考古資料相互貸借事業による長野県立歴史館・山梨県立考古博物館からの縄文時代中期を中心とした土器と、当館で所蔵している東京都多摩地域出土の土器とを比較展示し、地域間交流の一端をご紹介します。(日高慎)



深鉢形土器
長野県小諸市郷土遺跡出土
縄文時代・前3000～前2000年
長野県立歴史館蔵
渦巻き文様の美



◎有孔罎付土器
山梨県笛吹市一の沢遺跡出土
縄文時代・前3000～前2000年
山梨県立考古博物館蔵
独特な形の土器

本館14室 工芸

古代の技術に学ぶ

特集陳列 「甦る天平の宝——正倉院宝物模造」

2008年1月2日(水)～2月24日(日)

毎年秋に奈良国立博物館で開催されている正倉院展「一瞥になったこと」はありますか。世界的至宝とも称えられる正倉院宝物が公開される機会とあって、美術や歴史の愛好者から作家・研究者まで、いつもたくさんの方々が賑わう、人気の展覧会です。正倉院宝物のほとんどは八世紀の作品で、大陸からの舶載品が含まれて

おり、当時わが国に絶大な影響を及ぼした唐の文化や、シルクロードで連なる西域の文物の要素が色濃く現れた作例が数多くみられます。正倉院宝物は、異国情緒溢れる当時の文化のありようを如実に物語っているのです。当館には、その正倉院宝物を代表する華やかな作品の模造品が、まとめて保管されています。こ

れらを一堂に展示することにより、天平文化の精髓に触れていただければ幸いです。(竹内奈美子)



模造 螺鈿紫檀五絃琵琶
明治時代・19世紀
原品は華麗な装飾で有名な、正倉院宝物の代表格

本館16室 歴史資料

「歴史を伝える」シリーズ

特集陳列

「文化財——調査と保護——」

2008年1月2日(水)～2月17日(日)

今日文化財の調査は、博物館にとって欠かせない活動のひとつです。草創期の東京国立博物館にとっても古社寺や華族の所蔵品調査は、陳列品収集のためにも重要な事業でした。明治五年(一八七二)、このような文化財調査が初めて全国的な規模で行われました。これは当時の干支から「壬申検査」と呼ばれ、同年開催

の文部省博覧会の出品に備えるものでしたが、正倉院の開封をはじめ精力的に古社寺の調査が行なわれました。今回の特集では、当館に伝来する当時の資料を展示し初期文化財調査の様子を紹介するとともに、あわせて文化財の保護についても考えてみます。(富坂賢)



壬申検査関係写真 正倉院開封 横山松三郎撮影 明治5年(1872)

古代ガラスの究極の技法

特集陳列「古代の輝き

西アジアのガラス器」

11月20日(火)～2008年1月27日(日)



金帯装飾アラバストロン 高さ20・8cm アレクサンドリアまたはイタリア出土
紀元前後1世紀 個人蔵 アラバストロンとはこのような細長い香油容器。
色ガラスに金箔を挟み込む技法は、今でも未解明

当館は、三五〇件余りの作品からなる、世界でも有数の古代ガラス・コレクションの寄託を受け、整理を続けています。中心は地中海東部からイラン・中央アジアに至る古代西

アジアの作品で、容器・装身具などの器物が含まれます。この特集陳列では、その中で最も多数を占める容器の代表作品三十五点を選びました。

私たちの身近にあるガラスですが、起源は古く、前三千年紀のメソポタミアで制作が始まりました。色鮮やかな宝石としてのペースト・ガラス、好みの形に仕上げた吹きガラス、グラインダーを駆使して削り、磨きあげた、まばゆいばかりの切子ガラス。そういえば、古代日本にもシルクロードを経てはるばる運ばれたガラスの碗がありましたね。

(後藤健)

お正月に中国の吉祥図を

特集陳列「吉祥——歳寒三友を中心に——」

2008年1月2日(水)～1月27日(日)

新しい年を寿ぎ、歳寒三友(松・竹・梅)を中心に中国の吉祥図を集めます。厳しい寒さの中で、松や竹は常緑を保ち、梅は毎年必ず春の魁として花を開

き清香を放つことから、中国の人々は、松・竹・梅を厳しい環境の中でも節度を守り不変の心をもつものとして歳寒三友と讃

えてきました。また、松には不老長寿、竹には平安や子孫繁栄、梅には安産と子孫繁栄の意味があり、そのほか、蓮・水鳥・魚には豊かさ、牡



丹には富貴、桃には長寿、葡萄・鳳凰・石榴などには子孫繁栄、鳳凰には天下泰平、蝙蝠には福の意味があります。それらは人々の様々な願いがこめられた吉祥図として盛んに描かれ、今日まで広く親しまれてきました。中国の吉祥図の世界をお楽しみください。

(湊信幸)

瓢箪図 趙之謙筆
清時代・同治9年(1870) 高島菊次郎氏寄贈
「花卉図」4幅のうち「瓢箪図」。瓢箪には多子と子孫繁栄の願いがこめられている

天真爛漫で平淡な書風の革新者

特集陳列「董其昌とその時代」

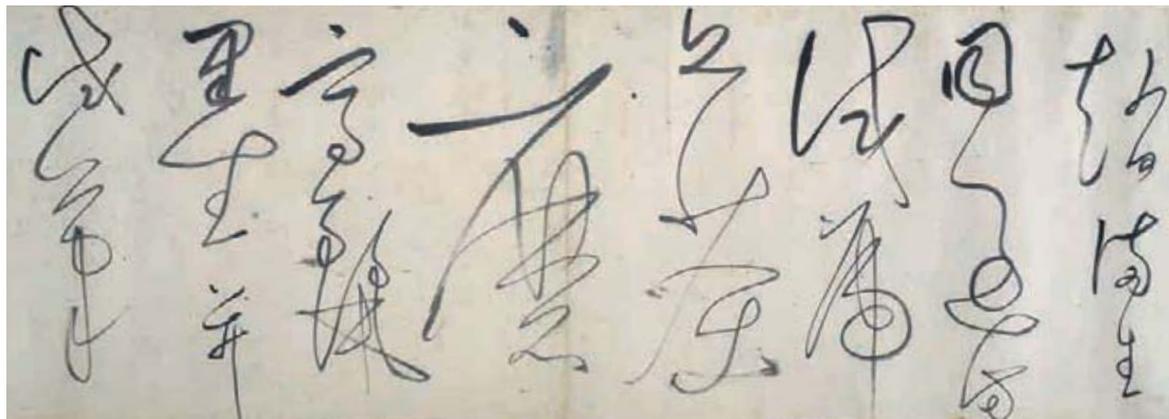
2008年1月2日(水)～3月2日(日)

董其昌(一五五五～一六三六)は万曆十七年(一五八九)、高級官吏登用試験である科挙に及第し、官途を歩むかたわら、書画に妙腕を発揮しました。書ははじめ唐の顔真卿や虞世南を学びましたが、これに飽き足らず、魏晉の書に遡りました。

さて、明時代中期に盛行した文徵明の書風は、この頃にはすでに形骸化していました。董其昌はこうした固定化した形式を否定して、天真爛漫で平淡な表現を目指しました。董其昌の優れた実践と理論は、明末から清初に展開される革新的な書風を導き、後世にきわめて大きな影響を与えることとなります。董其昌のさまざまな作品とともに、董其昌の影響を受けた清時代の諸家の書をあわせて陳列します。

(富田淳)

行草書羅漢贊等書卷(部分)
明時代・万曆31年(1603)
友人の来訪をうけ、虎丘の茶を喫し、高麗産の墨を磨り、新しい筆をおろして揮毫に及んだ作





本館3室 宮廷の美術

典麗優雅な11世紀の古筆

国宝 寛平御時后宮

歌合 伝宗尊親王筆

12月11日(火)～2008年1月20日(日)

近衛家に伝来した歌合で、関白藤原頼通(九九二～一〇七四)の命によって編纂が企画され、仁和年間の「民部卿行平家歌合」から天喜四年(一〇五六)にいたる歌合を、十巻に編纂した「十巻本歌合」の一部です。これは、奏覧本作成の前に中止となり、四十六の歌合を十巻に編纂した草稿本のまま伝存しました。主催者ごとに編纂され、第四、五が后宮、女院、准三宮にあたり、この「寛平御時后宮歌合」は巻四の一部です。その典麗優雅で実にゆつたりとした書風から、十一世紀半ばの書写と考えられます。(鳥谷弘幸)



●寛平御時后宮歌合(部分)
伝宗尊親王筆
平安時代・11世紀

本館3室 禅と水墨画

禅僧の悟を描く

重文 祖師図(香巖撃竹)

伝狩野元信筆

12月11日(火)～2008年1月20日(日)



◎祖師図(香巖撃竹)(部分) 伝狩野元信筆
室町時代・16世紀

大仙院は、ときの名僧、古嶽宗互によって永正十年(一五一三)、京都・大徳寺の山内に開創された塔頭です。祖師図は、もと大仙院にあった障壁画の一部で、狩野元信によって描かれたことがほぼ確実です。これは祖師図全六幅のうち、香巖撃竹の故事を描いた一幅です。唐時代の禅僧、香巖智閑が掃除していたとき、瓦のかけらが竹に当たって響く音を聞いて大悟したという場面を描いています。人里離れた静かな草庵での出来事を、広々とした空間の中に表わす巧みな構図法が採用されています。(救仁郷秀明)

本館8室 書画の展開 安土桃山・江戸

徹底した写生によって捉える像主の神

重文 佐藤一斎像

渡辺華山筆

11月20日(火)～12月24日(月・休)

渡辺華山(一七九三～一八四二)が数え年二十九歳のときに、当時五十歳であった儒学の師佐藤一斎(一七二二～一八五九)を描いた肖像画で、少なくとも十数度の下絵を経ての入念な制作であったことが、現存する画稿から確認

◎佐藤一斎像 渡辺華山筆 江戸時代・文政4年(1821) 河田燕氏寄贈
顔の描写には、銅版画などから学んだ西洋の陰影法の影響が見られます



本館11室 彫刻
武家の肖像中の名品
重文 伝源頼朝坐像
2008年1月2日(水)～4月6日(日)

明治初年まで、鶴岡八幡宮末社の白旗社に祀られていました。もともと頼朝像として造られたかは明らかではありませんが、近世には頼朝として祀られていたことが知られています。立烏帽子を被って狩衣と指貫を着け、右手に笏を持つています。これら衣服の表現は観念的ですが、前方を凝視する少し垂れた目、ふっくらとした頬といった表



◎伝源頼朝坐像 鎌倉時代・13～14世紀

情には写実性がみられます。しかし、鎌倉に残る上杉重房、北条時頼も、面長、垂れ目、ふくよかな頬が共通するので、表情も定型化した表現であったのかもしれない。(丸山士郎)

法隆寺宝物館第5室 金工

成分分析による新知見

重文 瓶鎮柄香炉

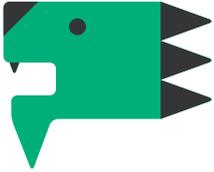
2008年3月23日(日)まで展示

柄香炉は僧侶が手にとって仏菩薩へ香を献ずるためのものです。玉虫厨子にも描かれているように仏供養具としては古くから用いられており、遺品としても聖徳太子の師であった慧慈所用と伝える飛鳥時代の鵝尾形柄香炉が伝わっています。柄香炉はその形式的な特徴から、鵝尾形、獅子鎮、瓶鎮、蓮華形の種類に分けられています。この柄香炉は、柄の先端に瓶形の重しを付けているところから瓶鎮柄香炉と呼ばれ、日本で

は平安時代の作が多く残っています。この作品も平安時代の作と考えられてきましたが、一九九二年中国江西省瑞昌県から、これとよく似た作が発見されました。また、二〇〇三年に成分分析を行なったところそれまで銅製としていたものが、銅と亜鉛の合金すなわち真鍮であることが判明しました。古代の日本には真鍮を精錬する技術がないことなどから、この柄香炉は中国製である可能性が高くなりました。(原田一敏)



◎瓶鎮柄香炉
奈良時代または唐時代・8世紀 法隆寺献納宝物

表慶館
体験の間ハンズオン体験コーナー
「わたしの鏡」2008年1月16日(水)～4月20日(日)
[11:00～16:00]

本館8室の暮らしの調度のコーナーにはたくさんの銅鏡を展示します。そこで見られる鏡は、私たちが見慣れた、ピカピカのガラスでできた鏡はありません。それらは、ガラスの代わりに金属の銅でできていて、昔はきれいに磨かれて姿もうつつたそうです。実は、昔の鏡は祈りや信仰の対象になるなど、顔をうつす以外にもたくさんの役目を持っていました。また、鏡の裏側を見ると、草花や花鳥など自然の風景など実にさまざまな文様が表されていて、昔の人たちが鏡にこめたきもちが伝わってくるようです。

ハンズオン体験コーナー「わたしの鏡」では、いろいろな文様のスタンプを使って、自分だけのオリジナル鏡をデザインすることができます。ぜひためしてみてください。同じコーナーで展示中の魔鏡もあわせて見ると、よく知っているはずの鏡が、今日からちょっと違ったものに見えてくるかもしれません。

桐竹鏡「天下一青家次」銘
安土桃山時代・天正16年
(1588)

本館 特別2室



増上寺の雪 川瀬巴水筆「摺り工程見本 昭和28年(1953)」

版からうまれる多様な世界

親と子のギャラリー 特集陳列「版でつくる」

11月27日(火)～12月24日(月・休)

日本美術の中で、版による表現といえば浮世絵を思い浮かべられる方が多いと思います。しかし、実は、もっと古くから多様な作品が版によって作られてきています。この展示は、そうした版で作られた作品の、多様な世界の一端に触れていたかどうかとする展示です。

仏菩薩等の姿をスタンプにしてたくさん押し表した^{いんぶつ}印仏、大量の需要にこたえる為に作られた仏教版画、流麗なかな文字を引き立たせる優雅な文様を摺り出した装飾料紙、また多色木版の制作過程を一覧できる順序摺りや、版木などを展示いたします。

併せて、表慶館体験の間で、職人による摺りの実演や、簡単な装飾料紙制作の体験活動を行います。この機会に、ぜひ、版の世界の楽しさに触れていただければ幸いです。(沖松健次郎)

表慶館
創作の間浮世絵版画制作実演
北斎の富士ができるまで

12月1日(土)・2日(日)[11:00～12:00]

親と子のギャラリー「版でつくる」(本館特別2室)に関連して浮世絵版画の制作実演を行います。木版多色摺りの浮世絵版画の名作、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の制作工程をご覧いただけます。どなたでもご参加いただけます。事前申込不要 協力:アダチ伝統木版画技術保存財団 参加費無料。ただし当日の入館料が必要です。

表慶館
体験の間

ハンズオン体験コーナー「版で遊ぶ」

11月27日(火)～12月24日(月・休)[11:00～16:00] 時間中、随時ご参加いただけます

親と子のギャラリー「版でつくる」(本館特別2室)に関連した、版画の体験コーナーです。

版が重ねられて、だんだんと完成の段階に近づく浮世絵の摺り見本や、浮世絵師の道具を見て、浮世絵版画のできるまでを実

感してください。スタンプを使って簡単な多色摺りにも挑戦!

さらに、和歌や物語などを書写した美しい料紙を摺る体験コーナーも設置します。そのままはがきとして使用できる美しい作品をお持ち帰りいただけます。

月例講演会

「神護寺の肖像画をめぐるいくつかの問題」

米倉迪夫(上智大学国際教養学部教授)

2007年12月15日(土) 13:30~15:00(開場13:00)

国宝室で12月4日から27日まで展示される「伝藤原光能像」に関連した講演会です。

「韓国と日本の架け橋

——韓国における日本美術の展示——

宣承慧(韓国国立中央博物館学芸研究士)

2008年1月19日(土) 13:30~15:00(開場13:00)

日本に留学して江戸時代の絵画を学び、韓国で日本美術の展示を担当されている研究者が、貴重な体験をお話します。

会場:平成館大講堂

定員:380名(当日先着順)

聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

ボランティア募集のお知らせ

平成20年度 生涯学習ボランティア募集

東京国立博物館では来館者の生涯学習の機会の増大とサービスの向上を図るためにボランティアによるさまざまな活動を行っています。館内案内、親子のギャラリーや講演会などの運営補助、資料整理、ガイドツアーなど、博物館とお客をつなぐ活動をしてみませんか。活動期間は2008年4月から3年間。応募受付期間は2007年12月3日(月)~2008年1月11日(金)。詳細は、当館ホームページ(<http://www.tnm.jp/>)あるいは本館インフォメーションで。

*お問い合わせ 当館ボランティア室 TEL 03-3822-1111(代表)

連続講座 近衛家と陽明文庫 —公家文化—千年をひもとく—

陽明文庫創立70周年記念「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」を一層楽しんでいただくために、3日間の連続講座を行います。

2005年から陽明文庫の調査に携わった研究員たちが、近衛家の人々と彼らが愛した書跡、絵画、工芸について語ります。

会場:東京国立博物館・平成館大講堂

定員:380名

受講料:1,000円(講座初日にお支払いいただきます)

申込方法:往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・お名前(ふりがな)・電話番号、「返信用表面」に郵便番号・住所・お名前を明記の上、〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育講座室「連続講座」係までお申し込みください。

※往復はがき1枚で、お1人様のみお申し込みいただけます。

締切:2007年12月17日(月)必着

※応募多数の場合は抽選のうえ、12月26日ごろまでに受講証をお送りします。

【講座内容】

■2008年1月12日(土)

《第1講》13:30~15:00「近衛家熙について」

講師:名和 修氏(陽明文庫 理事 文庫長)

《第2講》15:30~17:00「陽明文庫の近世絵画—公家の絵と武家の絵」

講師:松嶋 雅人(東京国立博物館 展示課平常展室主任研究員)

■2008年1月13日(日)

《第3講》12:30~14:00「戦国時代の近衛家」

講師:高橋 裕次(東京国立博物館 情報課長)

《第4講》14:30~16:00「人形と雛道具と家熙表具」

講師:小山弓弦葉(東京国立博物館 展示課平常展室研究員)

■2008年1月14日(月・祝)

《第5講》12:30~14:00「公家の教養と信仰 古筆・日記」

講師:島谷 弘幸(東京国立博物館 文化財部長)

陽明文庫創立70周年記念特別展 「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」 関連ワークショップのご案内

申込先:特別展「宮廷のみやび」広報事務局内「ファミリーワークショップ」係または「一般向けワークショップ」係
往復はがき:〒106-8691 麻布郵便局留 FAX:03-3560-0855 メール:miyabi@spre-ad.co.jp
※応募多数の場合、抽選でワークショップ参加券をお送りします。※お1人様1回のみのお申込みとさせていただきます。
お問い合わせ:ハローダイヤル TEL:03-5777-8600



表慶館
創作の間

ファミリーワークショップ

「唐紙を摺って散らし書きに挑戦! オリジナルカレンダーを作ろう」

特別展「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」に出品される作品から、「本阿弥切」や「室町切」などの古筆に使用されている雲母摺りの唐紙と同じ模様の版を使って摺り、さらに優美な散らし書きにも挑戦してみませんか。最後にカレンダー台紙に貼ってオリジナルの古筆風カレンダーを作ります。

①2008年1月5日(土) 10:00~12:00 ②2008年1月20日(日) 10:00~12:00

対象:小学校5年生以上の児童・生徒とその保護者 定員:各回家族10組

参加費:無料 ※ただし、保護者の方の入館には、特別展「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」の観覧券が必要です。

講師:文化財部長 島谷弘幸

申込方法:FAXまたはメールで「宮廷のみやびファミリーワークショップ参加希望」と明記の上、参加希望日(①か②)、保護者の郵便番号・住所・お名前(ふりがな)・電話番号とお子様のお名前と年齢(学年)を記入の上、お申込みください。

申込締切:①②ともに2007年12月20日(木)必着 ※応募多数の場合は抽選となります。



表慶館
創作の間

一般向けワークショップ

「古筆の魅力を体験! 唐紙摺りと散らし書き」

特別展「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」に出品される作品から、「本阿弥切」や「室町切」などの古筆に使用されている雲母摺りの唐紙と同じ模様の版を使って摺り、さらに優美な散らし書きにも挑戦してください。

①2008年1月5日(土) 14:00~16:00 ②2008年1月20日(日) 14:00~16:00

対象:一般の方 定員:各回20名 参加費:無料 ※ただし、特別展「宮廷のみや

び—近衛家1000年の名宝」の観覧券が必要です。

講師:文化財部長 島谷弘幸

申込方法:FAXまたはメールで「宮廷のみやび一般向けワークショップ参加希望」と明記の上、参加希望日(①か②)、郵便番号・住所・お名前(ふりがな)・電話番号と参加希望人数(2名まで)を記入の上、お申込みください。

申込締切:①②ともに2007年12月20日(木)必着 ※応募多数の場合は抽選となります。



ミュージアムシアター

TNM & TOPPAN MUSEUM THEATER

新体験シアター誕生!!

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

公開作品第1弾「国宝 聖徳太子絵伝」

前号で「VRシアター(仮称)の開
設」をお知らせいたしました
が、11月2日(金)から「TNM & TOPPAN
ミュージアムシアター」の名称
で皆様にご利用いただけること
になりました。このシアターは
当館と凸版印刷株式会社が共
同で開設した、文化財や文化
遺産の新しい鑑賞体験を提
供する場です。超高精細の映
写装置と240インチの大型ス
クリーンを備え、座席は30
席。ナビゲーターが作品の世
界をより身近に、わかりやす
く解説します。

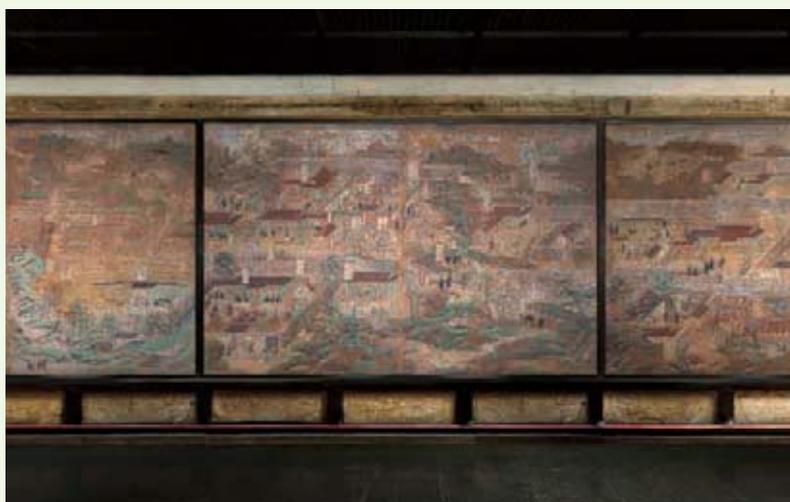
鑑賞にあたっては、まず「みどりの
ライオン」でおなじみの表慶館1階
のエントランスホールでご希望の回
の整理券をお受けとってください。
そこで受付を済ませていただければ、
あとは係員が皆様をシアターへとご
案内いたします。上映日は金・土・
日・祝日・振替休日、上映開始時間
は10時、11時、12時、14時、15時、16
時の計6回です。

上映作品の第一弾は「国宝 聖徳
太子絵伝」。そこには信仰と政務に
人生を捧げた聖徳太子のいくつもの
エピソードが繊細に描き出されてい
ます。平安時代に描かれたこの作品
は現在当館の法隆寺宝物館に収蔵さ
れていますが、もとは奈良の法隆寺
東院伽藍の「絵殿」にあったもので
すが、それが今回、優れたバーチャルリアリ
ティ技術により見事に絵殿の壁に戻
され、臨場感たっぷりの映像に仕上
げられています。さらに、絵伝のそれ
ぞれの場面が江戸時代の模写の画像
と瞬時に入れ替わる早業も見逃せま
せん。平安時代の作品では剥落など
で何が描かれているのか分からない
場面も、江戸時代の模写と合わせて、
物語をたどることができます。

およそ一〇〇〇年の時を経て、い
ま鮮やかによみがえる伝説の世界に
きっと皆様も酔いしれるはず。さあ、
とくとご覧あれ!
(井上洋二)



絵殿の内部です。太子のエピソードに満ちた生涯が画面いっぱいに展開されています。絵に近寄ることによりディテールまで鑑賞できます。国宝の聖徳太子絵伝と江戸期の模写(法隆寺蔵)を合わせ、物語をたどります



●聖徳太子絵伝 奉致貞筆 平安時代・延久元年(1069)



聖徳太子絵伝 吉村周圭模 江戸時代・天明7年(1787) 奈良・法隆寺蔵

ミュージアムシアターのご案内

上映日: 金・土・日・祝日・振替休日(開館日のみ)
上映開始時間: 10:00、11:00、12:00、14:00、15:00、16:00
(上映時間は約20分間)
受付: 表慶館1階エントランスホール(9:30~15:50まで整理券配付)
定員: 30名。定員に達した場合は、時間のご希望に添えない場合もあります
料金: 無料。ただし当日の入館券が必要です
ウェブサイト: <http://www.toppan-vr.jp/mt/>
※鑑賞後アンケートの記入にご協力ください

「国宝 聖徳太子絵伝」

監修: 東京国立博物館 制作: 凸版印刷株式会社 協力: 法隆寺

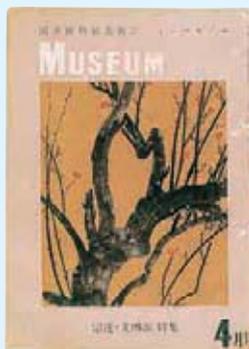
*掲載の画像3点はいずれもシアターで上映される映像の一部です

『MUSEUM』

東京国立博物館研究誌

温故知新

本誌毎号15ページでご案内している『MUSEUM』。1951年に創刊された、半世紀以上の歴史がある雑誌です。今回はこの『MUSEUM』を振り返ってみましょう。



『MUSEUM』第1号(昭和26年4月)表紙

国立博物館美術誌

創刊号の表紙に「国立博物館美術誌」とあります。

現在の国立博物館のうち創刊時の昭和二十六年(一九五二)当時、京都国立博物館は大正十三年(一九二四)二月(その時は京都帝室博物館)皇太子殿下の御成婚を記念して京都市に下賜されており、「恩賜京都博物館」といいました。「京都国立博物館」と改称したのは、昭和二十七年(一九五二)四月、国に移管された時です。それにもない「国立博物館」は東京国立博物館と改められました。また奈良国立博物館(その時は奈良帝室博物館)は、昭和二十二年(一九四七)五月に文部省の管轄となり、国立博物館奈良分館と改称しました。独立して奈良国立博物館となったのは、昭和二十七年(一九五二)七月のことです。従って、創刊時は「国立博物館」(東博)、「恩賜京都博物館」(京博)、「国立博物館分館」(奈良国立博物館)という体制でした。九州国立博物館はまだありません。この「国立博物館美術誌」という言葉にはこのような背景があるのです。

古美術に対する月刊誌を発行し、文化財に対する関心を高める

昭和二十六年四月、創刊号が刊行されました。発行は美術出版社、印刷は大日本印刷。版型はB5判、縦書き、三六ページ、表紙裏と三三―三六ページは広告紙面です。表紙は原色図版(尾形光琳筆「紅白梅図」静岡・箱根美術館、現MOA美術館蔵)で、当時の館員が次のように回想しています。「表紙に色刷りの図を大きく掲

げることは、色刷りが当時における出版界の関心事の一つであったことを物語っているように思われる。帝室博物館復興を祝した展覧会の目録にも色刷りは一点も見られなかった。次に表紙においては月号の数字がとてつもないと云って良い程大きいのが目立った。それは各号ごとの印象を深めようとする配慮のように思われる(飯島勇「博物館に因む回想と愛惜」『MUSEUM』の五〇〇号記念に寄せて)。「当時多くの雑誌が、粗末なザラ紙であるなかであって、総ア

ート三二ページ、表紙はカラー、鮮明な写真図版毎号約三〇図と豊富に収載」(石田尚豊「MUSEUM回想」)内容は「宗達・光琳派特別展に因んだ「宗達・光琳派特集」。同展は四月七日から五月六日まで、本館二階全室を会場として開催されました。同展に関連する論考、解説は二編掲載。この時代の『MUSEUM』の特徴的な記事をいくつか拾ってみましょう。「用語解説」(一五号―一〇八号)「書評」(四〇号―二四四号、三八七号)「新古寺巡礼」(二七号―一四八号)「特別展出品目録」(八号―三二七号)「展覧会紹介・関連随想」(二二号―三八四号)「海外美術の動き」(一号―一七号)。

海外美術の動きについては「当時、海外美術の動き、消息などは、今日とは比べようもなく少なかった。僅かに入手できた美術雑誌、あるいは一般週刊誌の中でも、比較的美術関係の記事を掲載する、たとえば「タイム」や「ニューズウィーク」等を通して知る程度であった。こうした海外の動きを、たとえその一端にもせよ、視点を定めて毎号紹介することは決して

て無意味ではないだろう」と述べられています(嘉門安雄「創刊余話」)。

展覧会に関連する特集、古美術を親しみやすく語ろうという企画など、まさに「文化財に対する関心を高める」という目的に沿った紙面づくりに取り組んでいることが理解されます。国立博物館ニュース第四六号に創刊予告広告が出ていますが、キャッチコピーは「古典を近代的感觉で見せる美術雑誌」です。

なお価格が九〇円(創刊号―五号)、一〇〇円(六号)、一二〇円(七号)とめまぐるしく変転するのは、昭和二十六年五月一日に出版用紙の割当制が廃されたことによる紙の高騰はもちろん、当時のインフレ進行のすさまじさを物語っています。とはいえ、同年の週刊朝日が、五月には二五円、七月には三〇円、朝日新聞朝刊の月ごめ購読が五月には一〇〇円、九月には一三〇円という当時の物価水準を考えると、『MUSEUM』がかなり高価なものであったことは否めないでしょう。

美術鑑賞は心の飢餓をいやす一種の栄養剤

戦後博物館が国立に移管され新しい体制が始まったこの時代、国立博物館としてかけた理想とその志については本誌六八四号「東京国立博物館ニュース」の創刊時をふりかえるでもご紹介いたしました。この『MUSEUM』も同じ思いから生まれたものです。「新しく組織化され、新しい道を歩みはじめた東博では、これらの人々をはじめ、みんな気負っていた。『MUSEUM』の発刊も、新

しい何ものかを生み出そうとする気負いの一つである(嘉門安雄)「創刊号の見本刷が届けられてきたときの先輩たちの興奮とお互いに祝福し労いあう姿が尋常ではなかったのを今でも思い出す」(関忠夫)「普及事業と『MUSEUM』随想」。「美術鑑賞は有閑の余事ではなく、心の飢餓をいやす一種の栄養剤である」(関忠夫)ということばにこめられた信念は、ある種心にうったえるものがあるのではないでしょうか。

そして今

文化財に対する関心と理解を深めることを目的としていた『MUSEUM』が日本の経済成長とともに文化財の情報や認可を扱う媒体などが増えたこともあり、論文と資料紹介を主軸とする学術誌へと編集方針を変更したのは、昭和三十九年(一九六四)のことです。また、平成八年(一九九六)四月発行の五四一号からA4判、隔月刊行という現在の体裁になりました。「研究成果を発表する場」として開かれた学術誌であるために、『MUSEUM』投稿規程が整備されたのもこの号からです。

ご購入ご希望の方は、当館ミュージアムショップでのご購入のほか、出版社から直接お求めいただくか、または書店でお取り寄せいただくか、また当館資料館はもちろんです。また当館資料館はもちろんです。大きな図書館でお読みいただけるはずですから、一度手にとってみてください。(立道恵子)

※本文中の引用は全て『MUSEUM』五〇〇号からです。

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

新春東博寄席

#新春は博物館で初笑い#

日時 2008年1月6日(日) 13:00開場 13:30開演
 場所 東京国立博物館 平成館大講堂
 料金 2,000円 全席自由
 出演 金原亨馬生・金原亨馬治・金原亨馬吉
 当日は平常展もご覧いただけます
 〈申込方法〉

郵便往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、12月18日(火)必着にて下記までお申込ください。後日チケット引換券をお送りします。当日、正門観覧券売場にて引換券を提出いただき、代金引換でチケットをお渡します。

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

※1枚の往復はがきで1名のみ申込可能。

〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館 イベント担当

「新春東博寄席」係

※ご提供いただいた個人情報、当該イベントの目的のみで使用させていただきます。

ニューイヤーコンサート

#「千の風になって」で話題!

綾乃ひびきの温かな歌声を#

日時 2008年1月26日(土) 18:45開場 19:00開演
 場所 東京国立博物館 平成館ラウンジ

出演 綾乃ひびき
 渡辺雅二(ピアノ)

主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット

曲目 新井 満:千の風になって
 日本古謡:さくらさくら ~花霞巡礼~
 シューベルト:アヴェ マリア ほか

料金 4,000円 全席自由

※友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,000円

※東京国立博物館平常展観覧券付き。

〈チケットのお求め方法〉

● 当館正門観覧券売場でのチケット販売
 受付 開館日の9:30~閉館30分前
 (月曜休館)

● 電話予約販売

申込先 東京国立博物館 イベント担当
 TEL03-3821-9270

受付時間 月曜日~金曜日9:30~17:00
 (土・日・祝日は除く)

引換時間 コンサート当日、当館正門観覧券売場にて代金引換にてお渡します。

※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。

※お車でのご来館はご遠慮ください。

プレゼントのお知らせ

◆陽明文庫創立70周年記念特別展

「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」招待券

本誌4、5ページで紹介した「宮廷のみやび」の招待

券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは12月18日(火)必着

◆東京国立博物館オリジナルカレンダー

2008年のカレンダーは「屏風絵の四季」です。抽選で10名様にプレゼントいたします。締め切りは12月20日(木)必着。カレンダーは年内にお届けします。

◆平城遷都1300年記念「国宝 薬師寺展」招待券

本誌6ページで紹介した「国宝 薬師寺展」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは2008年1月16日(水)必着

※プレゼントの応募方法

はがきに、希望賞品名(招待券[展覧会名も]かカレンダーのうち一つ)、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、この号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館

広報室「ニュース12・1月号」プレゼント係

本館1階・東洋館の一時閉室のお知らせ

展示環境改善のために本館1階と東洋館全室をそれぞれ下記の期間、閉室します。閉室期間中、ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承ください。

本館1階11室~20室(右図)

2007年12月17日(月)~
 2008年1月1日(火)

東洋館全室

2008年1月28日(月)~
 2月12日(火)



◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上

維持会員 法人 20万円

個人 5万円

主な特典

● 特別展の内覧会にご招待

● 東京国立博物館ニュースの送付

* 賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

* お問い合わせ

東京国立博物館営業開発部 賛助会担当

TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2007年10月4日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
 東京電力株式会社 様
 株式会社コア 様
 株式会社 精養軒 様
 毎日新聞社 様
 大日本印刷株式会社 様
 株式会社 大林組 東京本社 様
 朝日新聞社 様
 株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
 株式会社 ミロク情報サービス 様
 TBS 様
 読売新聞東京本社 様
 三菱商事株式会社 様
 凸版印刷株式会社 様
 プルガリジャパン株式会社 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
 早乙女 節子 様
 株式会社 三冷社 様
 宇津野 和俊 様
 伊藤 信彦 様
 井上 萬里子 様
 京菓匠 鶴屋吉信 様
 株式会社 東京美術 様
 服部 禮次郎 様
 数内 匡人 様
 岩沢 重美 様
 高田 朝子 様
 齋藤 京子 様
 齋藤 邦裕 様
 株式会社 安井建築設計事務所 様
 株式会社 ナガホリ 様
 佐々木 芳絵 様
 藤原 紀男 様
 小田 昌夫 様
 吉岡 昌子 様
 松本建設株式会社 様
 関谷 徳衛 様

株式会社秋華洞 様
 高橋 徹 様
 柴田 陸子 様
 絹村 安代 様
 高橋 良守 様
 岡田 博子 様
 白井 生三 様
 津久井 秀郎 様
 藤倉 光夫 様
 神通 豊 様
 永久 幸範 様
 五十嵐 良和 様
 石川 公子 様
 池田 慶子 様
 株式会社 東京書芸館 様
 青山 千代 様
 藤崎 英喜 様
 永田 実香 様
 西岡 康宏 様
 小川 徳男 様
 友景 紀子 様
 東野 治之 様
 辻 泰二 様
 竹下 佳宏 様
 松原 聡 様
 町田 昇 様
 シチズンホールディングス株式会社 様
 野澤 智子 様
 有賀 浩治 様
 吉田 幸弘 様
 野崎 弘 様
 坂田 浩一 様
 池谷 正夫 様
 池谷 徳雄 様
 脇 泰一郎 様
 秦 芳彦 様
 宇田 左近 様
 木谷 駿二郎 様
 木村 茂直 様

(ほか34名3社、順不同)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
 特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円
 発行日から1年間有効
 特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で
友の会
 加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
 口座番号00160-6-406616
 *振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください

パスポート
 加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
 口座番号00140-1-668060
 *振替用紙には申込区分(一般・学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入のうえ、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください
 *振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
 *振替手数料はお客様の負担となります
 *郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ
 TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
 FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で
 加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
 口座番号00100-2-388101
 *振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
 *振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
 *振替手数料はお客様のご負担となります
 *次号より送付ご希望の場合、締切は2008年1月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、4月から11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18:00まで。ただし、2008年3月28日は20:00まで、29日、30日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金
 一般600(500)円、大学生400(300)円
 *()内は20名以上の団体料金
 *障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
 *満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

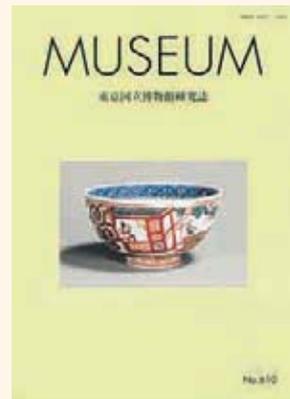
*講演会、ワークショップ、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みに際してご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的のみ使用させていただきます。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします



◆「日本」展、ケベック博物館協会賞受賞!
 二〇〇六年五月~十月にカナダのモントリオールで、当館とモントリオール考古歴史博物館 ポワンタ・カリエールが共催で行った「日本」展が、ケベック博物館協会賞を受賞しました。この賞は、ケベック州で過去一年間に優れた博物館の業績をのこした団体・個人に与えられるものです。今回は、カナダではじめて日本の原始・古代文化を、その優れた考古遺物によって概観したことが評価され、ポワンタ・カリエールが受賞の荣誉に輝きました。当館は、国宝・重要文化財を含む所蔵の考古遺物九十三件を貸与、出品作品の選定、出品交渉から図録等の解説執筆、監修、展示指導など、ポワンタ・カリエールのスタッフとともに展覧会を作り上げました。またこの展覧会にあたって、日本国内の十一機関より貴重な御所蔵品を貸与いただきました。

所蔵品を貸与いただきました。お問合せください。12月7日以降は、お電話にてお問合せください。

した。ご協力くださった各機関の皆さまに、改めて心より御礼申し上げます。(鬼頭智美)
 ◆日本の美術五〇〇号刊行記念講演会が本の街・神保町で開催されます
 「写本の書き姿と作り方―書きつがれることばと想い」一九六六年、当時の三国立博物館の監修の下に創刊、現在、独立行政法人国立文化財機構(東京・京都・奈良・九州国立博物館、東京・奈良文化財研究所)が監修する月刊『日本の美術』至文堂が十二月に五〇〇号を刊行します。これを記念し、普段あまり語られることがない「写本の書き姿と作り方」を解説します。「日本の美術」シリーズ同様、図版を多数用いてビジュアルな講演会を目指します。
 12月8日(土)15時~17時
 講師 藤本孝一(冷泉家時雨亭文庫調査主任、龍谷大学客員教授) / 会場 東京堂書店神田本店6階 / 定員 100人 / 聴講無料 / 協賛 国語・国文学出版会 / 応募方法 東京堂書店店頭、または電話(03-3291-5181)・メール(tokydosityen@nifty.com) / 件名「日本の美術記念講演会希望」・お名前・お電話番号・参加人数、をお知らせください。12月7日以降は、お電話にてお問合せください。



◆MUSEUM610号
 (平成19年10月15日発行)の掲載論文
 ①「明末期の民窯磁器の意匠にみられる(文人趣味)について」今井敦(当館文化財部展示課平常展室長)
 ②「法隆寺献納宝物 綾幡残欠―平成十七・十八年度の修理で判明した新知見―」沢田むつ代(当館上席研究員)
 ③「帝室博物館蔵書の変遷と、森鷗外の「発見」について」高橋裕次(当館事業部情報課長)
 ④「東京国立博物館所蔵の生人形(東京帝室博物館歴史部の歴代服装人形)恵美千鶴子(当館文化財部展示課平常展室非常勤職員)」
 ※購読のお問合せは中央公論事業出版(電話 03-3535-1321)へ。

◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉
 特別展覧会「憧れのヨーロッパ陶磁―マイセン・セーヴル・ミントンの出会い―」2008年1月5日(土)~3月9日(日)
 特集陳列「館蔵品のはじまり―京都博物館からの贈りもの―」11月21日(水)~12月24日(月・休)
 新春特集陳列「社寺伝来の名刀」2008年1月2日(水)~2月11日(月・祝)
 〈奈良国立博物館〉
 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」12月8日(土)~2008年1月20日(日)
 特集展示「奈良で甦る縄文の世界~小野忠正コレクション~」12月8日(土)~2008年1月14日(月・祝)
 〈九州国立博物館〉
 足利義満六百年御忌記念「京都五山一禪の文化―」展 2008年1月1日(火・祝)~2月24日(日)

1 SAT	浮世絵版画制作実演 11:00 表慶館創作の間*1 ファミリーワークショップ「北斎の富士ができるまで」13:00 表慶館創作の間*2 13:30 14:00 15:00
2 SUN	大徳川展 浮世絵版画制作実演 11:00 表慶館創作の間*1 ファミリーワークショップ「北斎の富士ができるまで」13:00 表慶館創作の間*2 14:00 14:30 秋の庭園開放
3 MON	休館日
4 TUE	列品解説「私撰集の古筆」14:00 表慶館対話の間
5 WED	14:00 14:30
6 THU	14:00
7 FRI	15:00
8 SAT	藤原真理チェロコンサート 15:00 平成館ラウンジ*3 14:00 14:30 15:00
9 SUN	14:00
10 MON	休館日
11 TUE	列品解説「刀装具の素材と技術について」14:00 本館13室
12 WED	14:00 14:30 14:00
13 THU	14:00 14:00 14:30
14 FRI	14:30 15:00
15 SAT	月例講演会「神護寺の肖像画をめぐるいくつかの問題」13:30 平成館大講堂*4 13:30 14:00 14:30 15:00
16 SUN	12:30, 14:00 14:00 14:30
17 MON	休館日
18 TUE	列品解説「甲信地域の縄文土器」14:00 平成館企画展示室
19 WED	14:30
20 THU	14:00
21 FRI	15:00
22 SAT	14:00 15:00
23 SUN	14:00
24 MON	
25 TUE	休館日
26 WED	
27 THU	
28 FRI	休館日
29 SAT	休館日
30 SUN	休館日
31 MON	休館日

1 TUE	休館日
2 WED	博物館に初もうで 平常展無料 獅子舞 10:30, 13:00*5 和太鼓演奏 宮廷のみやび 奏 11:00, 13:30*5 江戸の遊芸 14:30*5
3 THU	獅子舞 10:30, 13:00*5 和太鼓演奏 11:00, 13:30*5 クラリネットコンサート 12:00, 15:00*5
4 FRI	
5 SAT	ファミリーワークショップ「唐紙を摺って散らし書きに挑戦!」10:00 表慶館創作の間*6 一般向けワークショップ「古筆の魅力を体験!」14:00 表慶館創作の間*6
6 SUN	新春東博寄席 13:30 平成館大講堂*7
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説「久国と粟田口派」14:00 本館13室
9 WED	14:00 14:30 14:00
10 THU	14:00 14:00 14:30
11 FRI	14:30 15:00
12 SAT	連続講座「近衛家と陽明文庫」1・2講*6 14:00 14:30 15:00
13 SUN	連続講座「近衛家と陽明文庫」3・4講*6 14:00
14 MON	連続講座「近衛家と陽明文庫」5講*6
15 TUE	休館日
16 WED	14:30
17 THU	14:00
18 FRI	15:00
19 SAT	月例講演会「韓国と日本の架け橋—韓国における日本美術の展示—」13:30 平成館大講堂*4 13:30 14:00 15:00
20 SUN	ファミリーワークショップ「唐紙を摺って散らし書きに挑戦!」10:00 表慶館創作の間*6 一般向けワークショップ「古筆の魅力を体験!」14:00 表慶館創作の間*6 12:30, 14:00 14:30
21 MON	休館日
22 TUE	列品解説「甞る天平の宝—正倉院宝物模造」14:00 本館14室
23 WED	14:00 14:30 14:00
24 THU	14:00 14:30
25 FRI	14:30 15:00
26 SAT	天平楽府コンサート 13:30 平成館大講堂*8 ニューイヤーコンサート 19:00 平成館ラウンジ*9 14:00 14:30 15:00
27 SUN	14:00 14:00
28 MON	休館日
29 TUE	列品解説「資料目録が語ること」14:00 表慶館対話の間
30 WED	14:00 14:30
31 THU	14:00

- = ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館1階エントランス
- = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所:本館1階エントランス
- = ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所:本館1階エントランス
- = ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館1階エントランス
- = ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:表慶館エントランスホール
- = ボランティアによる考古展示室ガイド、場所:平成館考古展示室入口
- = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、場所:法隆寺宝物館1階エントランス
- = ボランティアによる応挙館茶会、集合場所:表慶館エントランスホール (一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配付)

- 2/24まで
- = ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:表慶館エントランスホール (先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配付)
 - = ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所:本館1階エントランス
 - = ミュージアムシアター上映日、詳細は本誌12ページをご覧ください
- *1 詳細は本誌10ページをご覧ください
 *2 事前申込制 申込は締め切りました
 *3 有料イベントです 詳細は前号14ページをご覧ください
 *4 詳細は本誌11ページをご覧ください
 *5 詳細は本誌2ページをご覧ください
 *6 事前申込制 詳細は本誌11ページをご覧ください
 *7 有料イベントです 詳細は本誌2、14ページをご覧ください
 *8 事前申込制 詳細は本誌5ページをご覧ください
 *9 有料イベントです 詳細は本誌14ページをご覧ください
- 上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
 *屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。